



国営ひたち海浜公園のネモフィラ。空と地面が一体となった幻想的な風景に圧倒されます。日本各地で3月下旬から5月上旬に開花します。 平尾 隆

発行 一般社団法人 相模原市医師会

昭和49年に「健康さがみはら」第1号を発行以来、皆さまに支えられ今号で300号を迎えることができました。これもひとえに日頃よりご愛読いただいている市民の皆さまのお陰と心より感謝申し上げます。今後も最新の健康情報を提供し、皆さまの健康意識向上に寄与できるよう努力してまいります。引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。さて、今回は、最近急増している感染症「梅毒」と社会問題となっている「オーバードーズ」のお話です。ともに“正しい理解”と“予防・対応”が重要です。是非ご一読ください。

梅毒が 流行しています

胎児への
感染も

1、はじめに

性感染症の一つである「梅毒」が全国的に増えています。梅毒とは、梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、主に性交渉により口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。

2、増加傾向の梅毒

2023年の梅毒報告数は、1999年に感染症法に基づく調査が始まって以来、最多を更新しました。コロナ禍でインフルエンザ、RSウイルス感染症、麻疹・風疹など多くの感染症が一時的に減少傾向となった中、梅毒はほぼ継続的に増加を続けています。日本では長く年間500人程度の希少疾患だった梅毒ですが、2013年に1200件を超える報告があって以来、増加傾向を示しています(図1)。2019、2020年と一時的にやや減少が認められたものの、2021年には7978件、2022年には1万3221件、2023年には暫定値ですが1万5092件と再び急増し2020年と比較して約2.57倍に増加した結果となりました。

梅毒報告数の推移

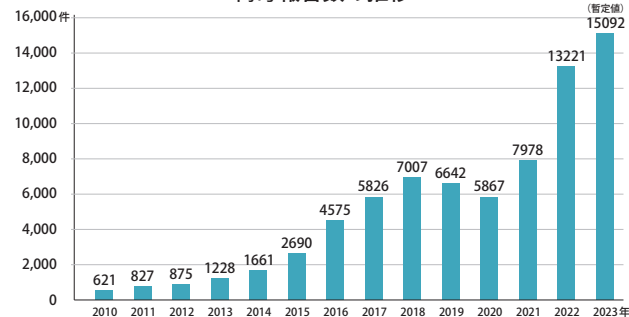


図1 厚生労働省ホームページ掲載「梅毒報告数の推移」をもとに作成

3、梅毒増加の原因

梅毒増加の一つの原因として考えられるのは、性風俗産業を通じた感染です。男性感染者の「性風俗利用歴あり」の割合は約40%、女性感染者の「性風俗従事歴あり」の割合は約40%となっています。ただ、梅毒感染の現

状は性風俗経路だけでは説明がつかないほどの増加になってしまっています。患者の年齢層は男性で20-40歳代が多く、女性は男性に比べて若い年齢に分布が集中しており、20-24歳が最も多いです。この年齢の分布は、2012年以降、増加傾向が認められて以来変わっていません。梅毒増加のもう一つの大きな原因として考えられるのが、梅毒感染に関する認識不足です。もともと年間500人程度の希少疾患だったので、認知度が低く感染が拡大した可能性は多分にあると思われます。そのため今回の広報によって、啓発の一助となればと思います。

4、梅毒の症状

梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができる、痛みやかゆみのない発疹が手のひらや足の裏、体中に広がる場合があります。またこれらの症状が消えても感染力が残っているのが特徴です。治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもあります。また妊娠中の梅毒感染は特に危険です。妊娠している人が梅毒に感染すると、母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し、死産や早産になる場合に加え、生まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたすことがあります。これは先天梅毒といわれます。

梅毒患者の主な症状

感染から1〜4週間後ぐらい(第1期症状)	■性器、口など感染した部分にしこりや潰瘍ができることがある
1期症状から4〜10週間後ぐらい(第2期症状)	■体や手足など全身に赤い発疹(バラ疹)が表れることがある
※第1〜2期に表れる症状は、無治療でも自然に消えることがある	
感染から数年〜数十年(後期)	■皮膚や筋肉などにゴムのような腫瘍ができることがある ■心臓や脳などに重い症状が出ることも
先天梅毒	■死産や流産につながる恐れ ■生まれてくる子の神経や脳などに異常をきたすことも

治療と予防

治療	■ペニシリン系抗菌薬(抗生物質)の服用や注射
予防	■コンドームの適切な使用

※厚生労働省の資料などを基に作成

5、先天梅毒

通常は妊娠初期に梅毒・肝炎ウイルス・HIVウイルスなどの検査を行いますが、妊婦健診を受けないと梅毒やその他の感染症に感染していた際に、新生児に影響がでることがあります。

梅毒未治療の場合、妊娠中の初期梅毒では40%が胎児死亡・周産期死亡に至り、さらに生存児にも先天梅毒の諸症状が認められたと報告されています。ただし、先天梅毒はお薬を飲んで完全に母子感染を防げないため、妊娠する前に一度梅毒かどうか検査して治療することをおすすめします。梅毒の検査は保健所でも無料で受けられるためぜひ一度検査してみてください。

(相模原市医師会 種元 智洋)

